

工藤篤子メールマガジン 154号

2010.03.29 ●サウロからパウロへ

お元気でいらっしゃいますか？

先週の木曜、無事、日本に到着しました！

まだ時差ボケと格闘していますが、ひざの調子もずいぶん良くなり、健康も守られています。

皆さんの祈りのお支えに心から感謝しています。

今回のドイツ滞在では、素晴らしい聖書の学びの時を持つことができました。礼拝・賛美に関しても、目が開かれることがたくさんありました。今後も、時間が許される中で学びを続けて行きたいと思っています。そして、心を尽して主のみこころを求めながら、主の喜ばれる礼拝・賛美を捧げる者とさせていただきたいと思っています。

●サウロからパウロへ

ドイツのキリスト教会は、プロテスタントもカトリックも、今、心憂う事態が発生・発覚し（教会最高責任者による飲酒運転や、聖職者による性的虐待など）、心が痛みます。ドイツ教会は、今、大きく揺さぶられています。けれどもそれは、正しいものと正しくないものが明確にされ、私たちを深い悔い改めに導いて、正しい歩み、そして祝された歩みへ引き戻そうとしてくださる、主の愛の御手のゆさぶりであるとも思っています。

そのような中で、喜ばしいニュースもありました。世界的に有名なドイツ人過激派異才ロック・シンガーの二ナ・ハーゲンがイエス・キリストの救いに導かれ、昨年12月、改革派教会で洗礼を受けたのです。そしてこの3月には、Bekenntnisse「告白」と題して、彼女の証しを綴った本が出版されました。私はその抜粋が掲載された記事を、キリスト教雑誌で読んだだけですが、それだけでも、中絶、麻薬、悪霊魔術師との交流など、壮絶な内容でした。彼女は、想像を絶するような深い淵から主に叫び、長い年月がかかりましたが、ついにキリストの救いに導き入れられたのでした。

私は、ドイツ教会の現状と、二ナ・ハーゲンの過去を見ながら、人事ではないと思われています。自分も、肉に従って生きて行けば、同じ間違い、同じ罪を犯しかねない汚れた者であることをよく知っているからです。

ドイツでは、人が一変する時、「サウロからパウロへ」と言います。実際には、サウロが一変したからパウロという名前が変わったわけではありません。サウロはヘブル語名であり、パウロはギリシャ語名ですから、パウロは主の啓示を受けて一変した後も、サウロでありパウロでありました。けれども、そんなことなど解せず、生き方や性格がマイナスからプラスに一変する時、ドイツでは、「サウロからパウロへ」という表現が使われるようになって行ったのだと思います。その意味に従うなら、罪深い生活に浸り、派手な洋服を着て、すごい形相をして歌っていたロック歌手が、自分の罪を悔い改めて、心からの感謝の賛美を神に捧げる、これはまさしく「サ



ウロからパウロへ」の姿です。そして、皆さんも私も、二ナほどの劇的な回心ではなかったにしても、イエス・キリストを信じた日、「サウロからパウロへ」一変しました。そして、これからも、肉の歩みに気づいたなら、すぐさま悔い改めてみ霊によって歩むこと、これこそ、かのパウロ当人が、書簡を通して私たちに伝えている、日々の「サウロからパウロへ」の生き方だと思っています。

私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。

(ローマ 7 : 24, 25 a)

私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。

(ガラテヤ 5:16)

●お祈りください

- 4月5月のひとつひとつのコンサートにおいて、この者が霊とまことをもって主を賛美し、福音を伝えることができますように。
- 主ご自身がひとりひとりのたましいに語りかけ、救いに導いてくださいますように。
- 主が、この者の霊肉、声を守ってくださいますように。

4月 4日 (日) 北浜チャーチ 「♪きたはま♪春のコンサート」

15時開演 お問い合わせ 06-6226-1334

4月 9日 (金) 柏グローリーチャペル・賛美コンサート

19時30分 お問い合わせ : 04-7133-8544

4月 11日 (日) 柏グローリーチャペル礼拝賛美

お問い合わせ : 04-7133-8544

4月 16日 (金) 「ハッピーイースター 宝塚」 午後 19 時開演

お問い合わせ : 岩間洋師 0797-73-6076 (宝塚栄光教会)

4月 24日 (土) 石田耳鼻咽喉科開院 10周年記念コンサート

4月 29日~5月 3日 中国、杭州・崇一堂伝道大会にて賛美

5月 7日~17日 台湾賛美コンサートツアー



昨日の「棕櫚の日曜日」から、いよいよ受難週に入りました。4月4日のイースター・コンサートに向けて、主の受難の足跡を辿りながら、心を備えてまいりたいと思っています。

皆様も、どうぞ、主の十字架のご愛に満ち溢れる受難週を過ごされますように！

工藤篤子

追伸：

メルマガ 151号で、レント（受難節）が、灰の水曜から棕櫚の日曜までの40日であると記載しました。それに対して、正式なレントは、灰の水曜から復活祭までの、日曜日をカウントしない40日ではないかとの問い合わせがあり

ました。確かに 1061 年のベネVENT 宗教会議では、お問い合わせの方がおっしゃる通りに決められ、カトリック教会暦では、今もそのようになっていると思います。けれども、ベネVENT 会議後、灰の水曜からすべての日曜を含めた棕櫚の日曜までの 40 日をレント（受難節）とし、棕櫚の日曜から聖週間（あるいは受難週）が始まるという区分けが広まって行きました。現在、ヨーロッパでは、この数え方の方が一般的になっています。